

地域包括ケアの「つながり」から 地域共生社会へ

平成31年2月2日(土)

能美市健康福祉部次長兼

我が事丸ごと推進課長 山下 実千代

能美市の概要 (3つの生活圏域)



【平成30年4月1日現在】

人口	49,921人	→
世帯数	18,496戸	
高齢化率	25.2%	↑
要介護認定率	15.8%	→
生活保護受給者	121人	↑
生活保護世帯数	100世帯	↑

公立小学校数	8校
公立中学校数	3校
地域包括支援センター数	3か所(委託)
相談支援事業所数	3か所(委託)
くらしサポートセンター	1か所(委託)

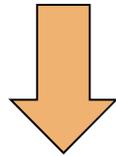
障害者手帳所持者数: 2,286人(身体1,629人→・療育365人↑・精神292人↑)

地域の医療機関の状況: 病院3か所(各圏域に1か所)、診療所28か所

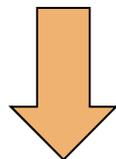
介護保険事業計画**第6期**までの整備
(地域包括ケアシステム構築)

と

介護保険事業計画**第7期**の取組み方針
(地域共生社会の実現)



我が事・丸ごと推進の地域づくり事業との連動
(H29年度:福祉課が事業実施課でスタート)



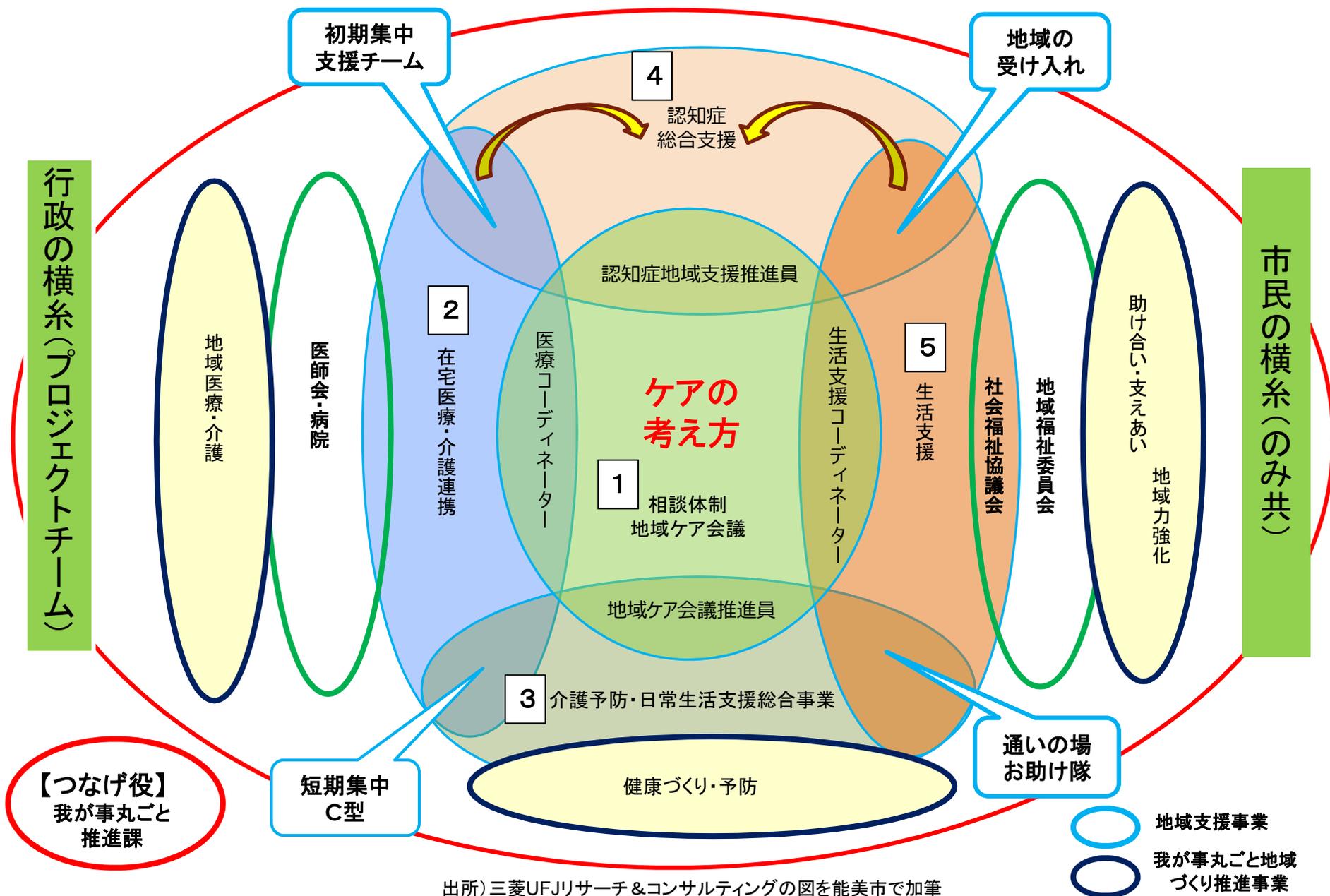
我が事丸ごと推進課(H30年4月1日~)
「横糸」プロジェクトチーム結成(チーム長:副市長)

★目指す姿：能美市で共に生き、幸せな暮らしを実現

【我が事丸ごとの地域づくり推進事業 能美市の推進体制】 地域共生社会の実現



能美市 地域包括ケアの「つながり」から地域共生社会へ



出所) 三菱UFJリサーチ&コンサルティングの図を能美市で加筆

高齢者の地域包括ケアの「つながり」を紹介！！

その「つながり」による地域づくりから、

地域共生社会の実現を目指します！

1

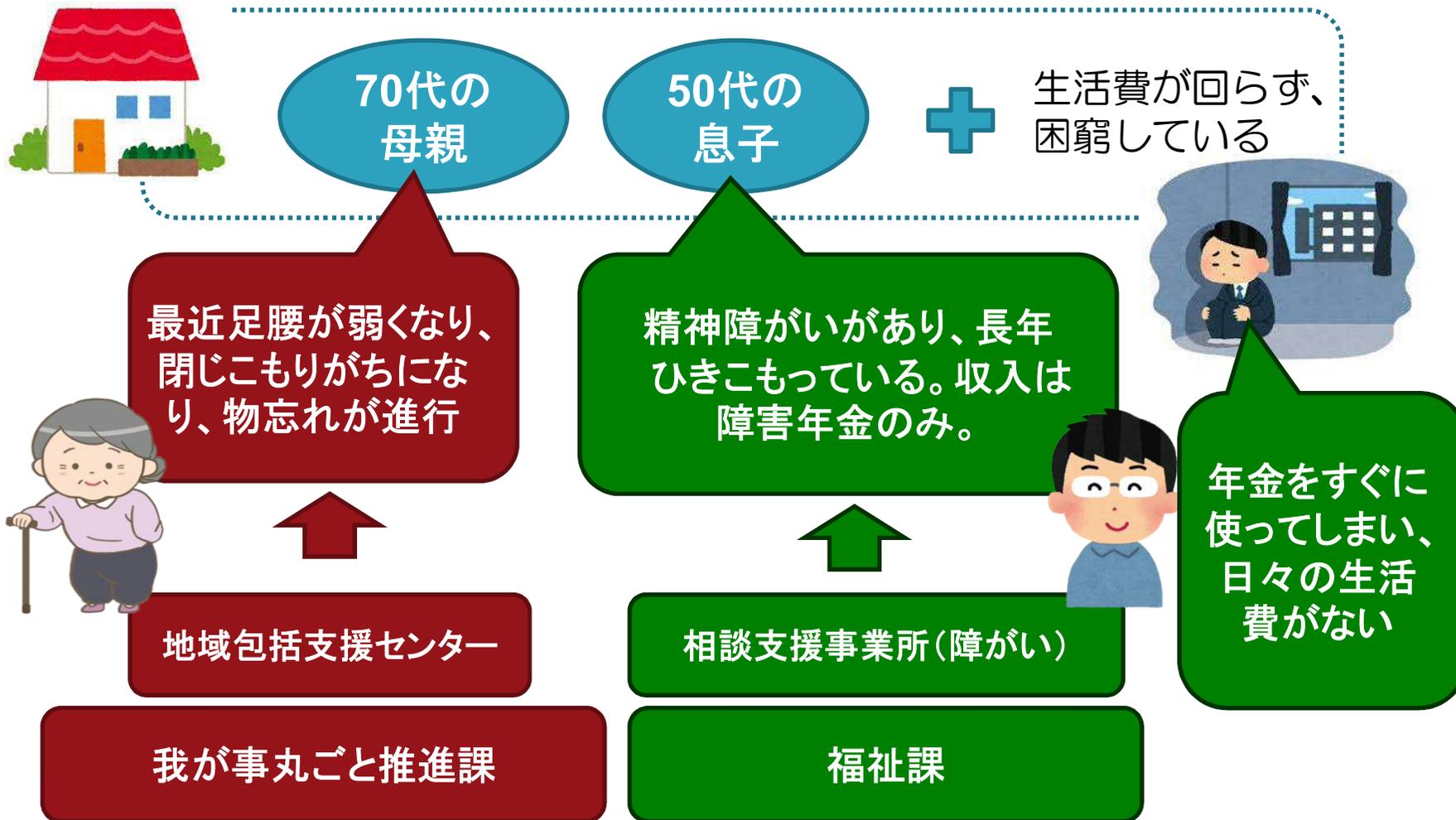
【相談体制】からのつながり

総合的な相談・支援体制構築から

関係者の輪が広がりました！

能美市の現状：複数課題を抱えた世帯数の増加

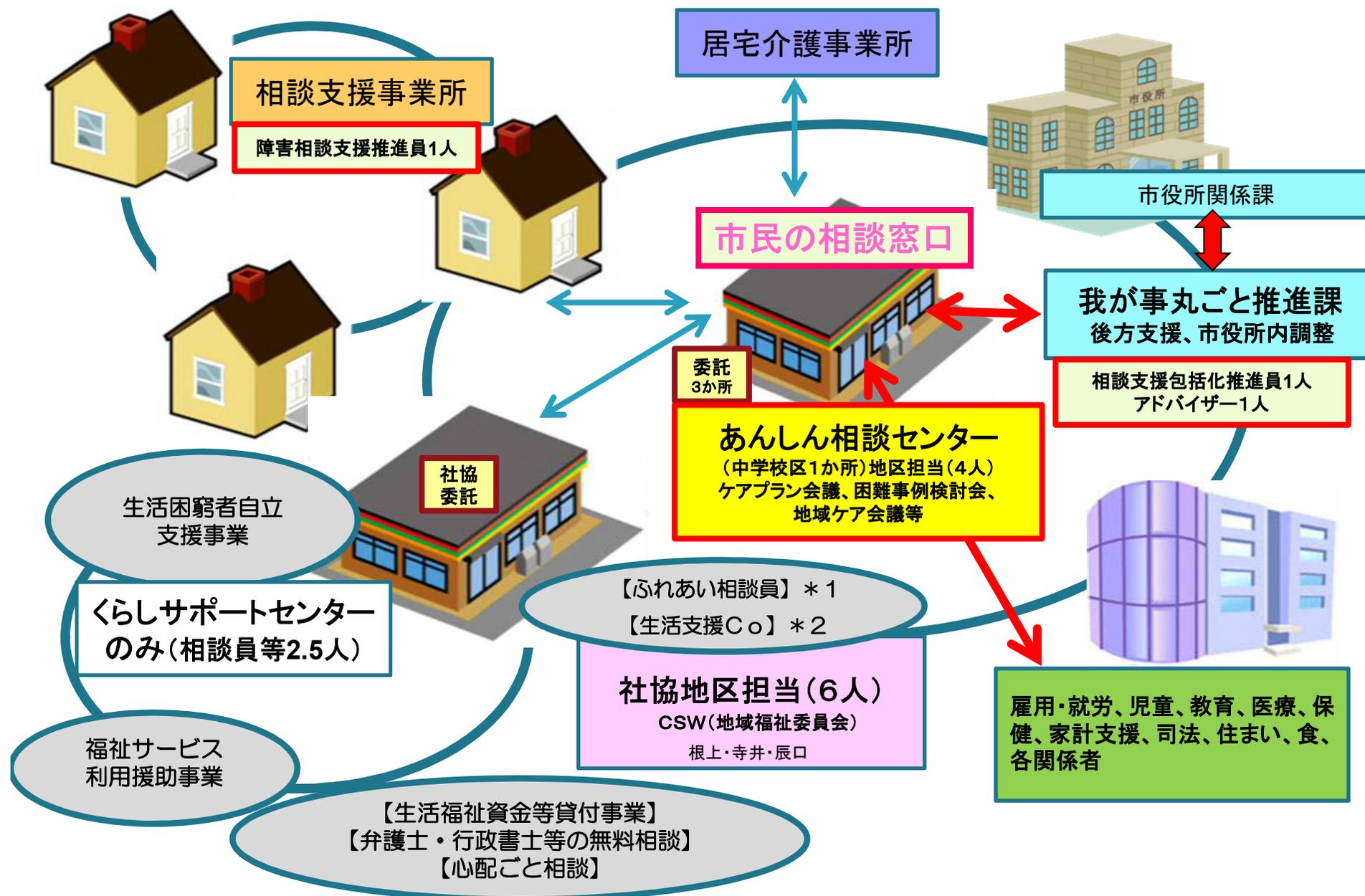
事例 70代の母親と50代の息子の2人暮らし



世帯に対し、責任を持って経過を見ていく人があいまい

【あんしん相談センターを中心とした関係機関の連携】

* 複数の課題(高齢者、障がい、生活困窮等)を抱えた世帯を支援するしくみ案(31年度～)



・あんしん相談支援センター(中核機関)

・相談支援包括化推進員(後方支援)

相談事業所

- ・相談支援事業所(障害)
- ・くらしサポートセンターのみ(生活困窮)
- ・居宅介護支援事業所(介護保険)
- ・医師会(医療コーディネーター)



顔の見える
つながりの中で
新たな関係者が
加わった連携が
うまてきています!

地域

社会福祉協議会

(地区担当=コミティソーシャルワーカー)

- ・生活支援コーディネーター
- ・ふれあい相談員

1

【地域ケア会議体制】からのつながり

地域包括支援センター
地域ケア会議推進員配置
(後方支援:我が事丸ごと推進課)

◎在宅医療・介護連携事業とのつながり

医療との連携の課題
地域ケア会議の重要性⇒
プロジェクトチームの発足

◎総合事業とのつながり

自立支援・重症化予防の重要性⇒
短期集中C型

◎認知症総合支援事業とつながり

初期対応の重要性⇒
初期集中支援チームの必要性

徘徊課題から、地域とのつながりへ

在宅医療・介護連携事業

との「つながり」

MCN:メモリーケアネットワーク能美 在宅医療・連携連携について



13名(H23年度)→72名に！仲間が増えていっています！

1グループ: 入退院時連携体制



能美市地域包括ケアシステムの 在宅医療・介護連携について話し合う場

2018.4

MCNコア会議 医師会・行政

1グループ 入退院時連携体制

医師会
病院医師
医療コーディネーター
高齢者支援センター
能美市
病院関係者
ケアマネジャー
訪問看護
介護事業所
消防本部
薬剤師会
歯科医師
栄養士の会
リハビリ連絡会
(MSW)

2グループ 在宅医療介護の 諸々を考える

医師会
病院医師
医療コーディネーター
高齢者支援センター
能美市
病院関係者
ケアマネジャー
訪問看護
介護事業所
消防本部
薬剤師会
歯科医師
栄養士の会
リハビリ連絡会

3グループ 認知症の対応体制

医師
医療コーディネーター
高齢者支援センター
能美市
病院関係者
ケアマネジャー
訪問看護
介護事業所
消防本部
薬剤師会
歯科医師
栄養士の会
リハビリ連絡会
(社協)

地域ケア会議プロジェクトチーム 医師会・病院医師・ケアマネジャー・高齢者支援センター・能美市

研修勉強会・市民との取り組み 事務局（能美市・高齢者支援センター）

総合事業との「つながり」

総合相談

自立支援や重症化予防の視点

ケアプラン会議(要支援・事業対象者全員)
本人目標:ケアマネジメント(多職種協働)

●通所型サービス
【健幸ライフ教室】【他】
(全24回、6か月間)

●訪問型サービス
【訪問リハビリ事業】【他】
(1~3回、6か月間)

組み合わせ

ケアプラン会議(評価会議)

C型が総合事業の
1丁目1番地

一般介護予防

中学校区3カ所

おげんき倶楽部
(機能維持・介護予防教室)(送迎あり)

中学校区3カ所

貯筋教室
貯筋教室指導員
(住民)による体操
教室

町会・町内会

のみ活倶楽部
(のみ活指導員(住民)
による認知症予防教室)

いきいきサロン
(全町会・町内会で実施)

町会単位公民館解放
地域カフェ

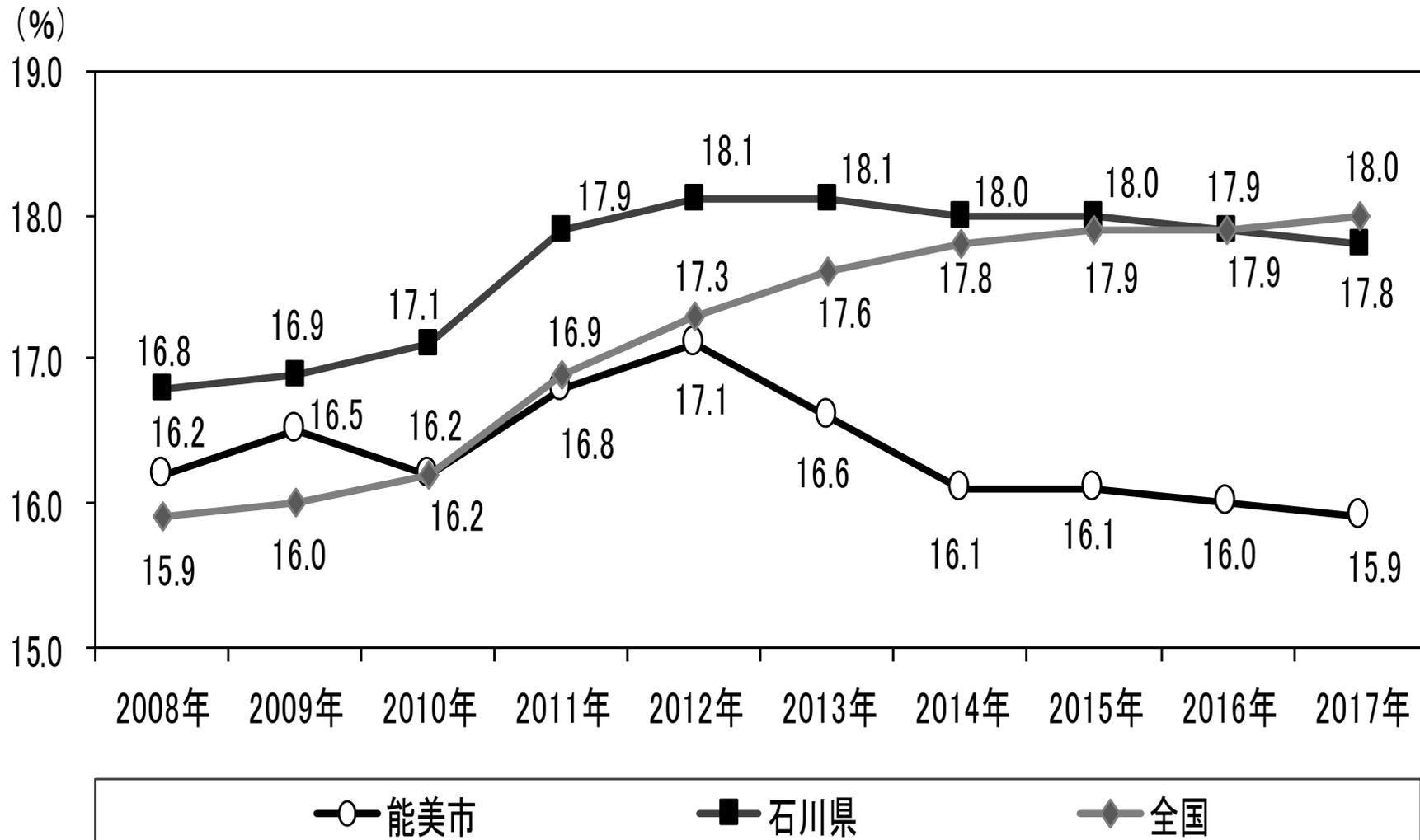
お助け隊
(生活支援活動)

「通いの場」「お助け隊」の担い手としての介護予防

認知症総合支援事業との

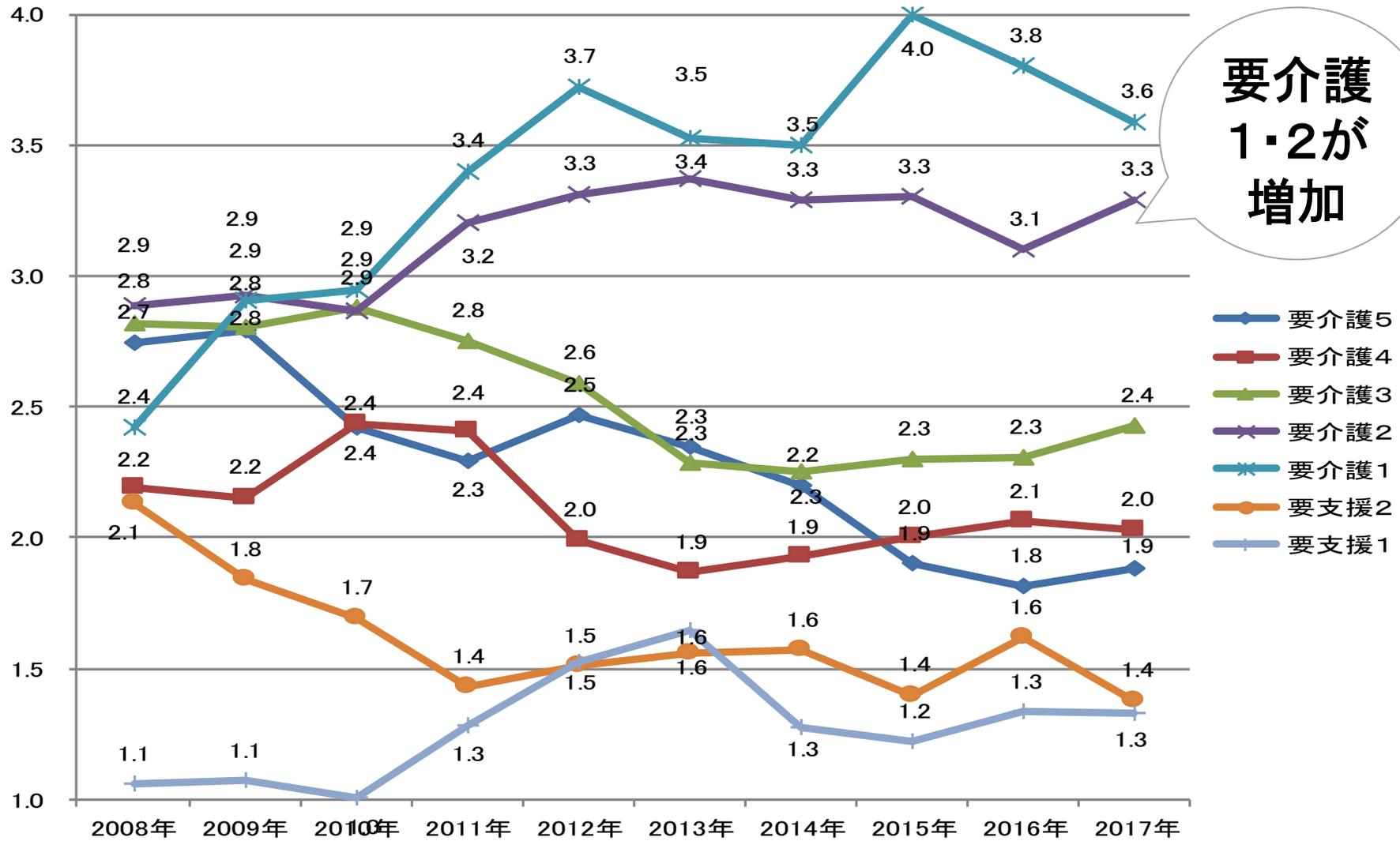
「つながり」

■要介護認定率の推移(全国、県、能美市比較)



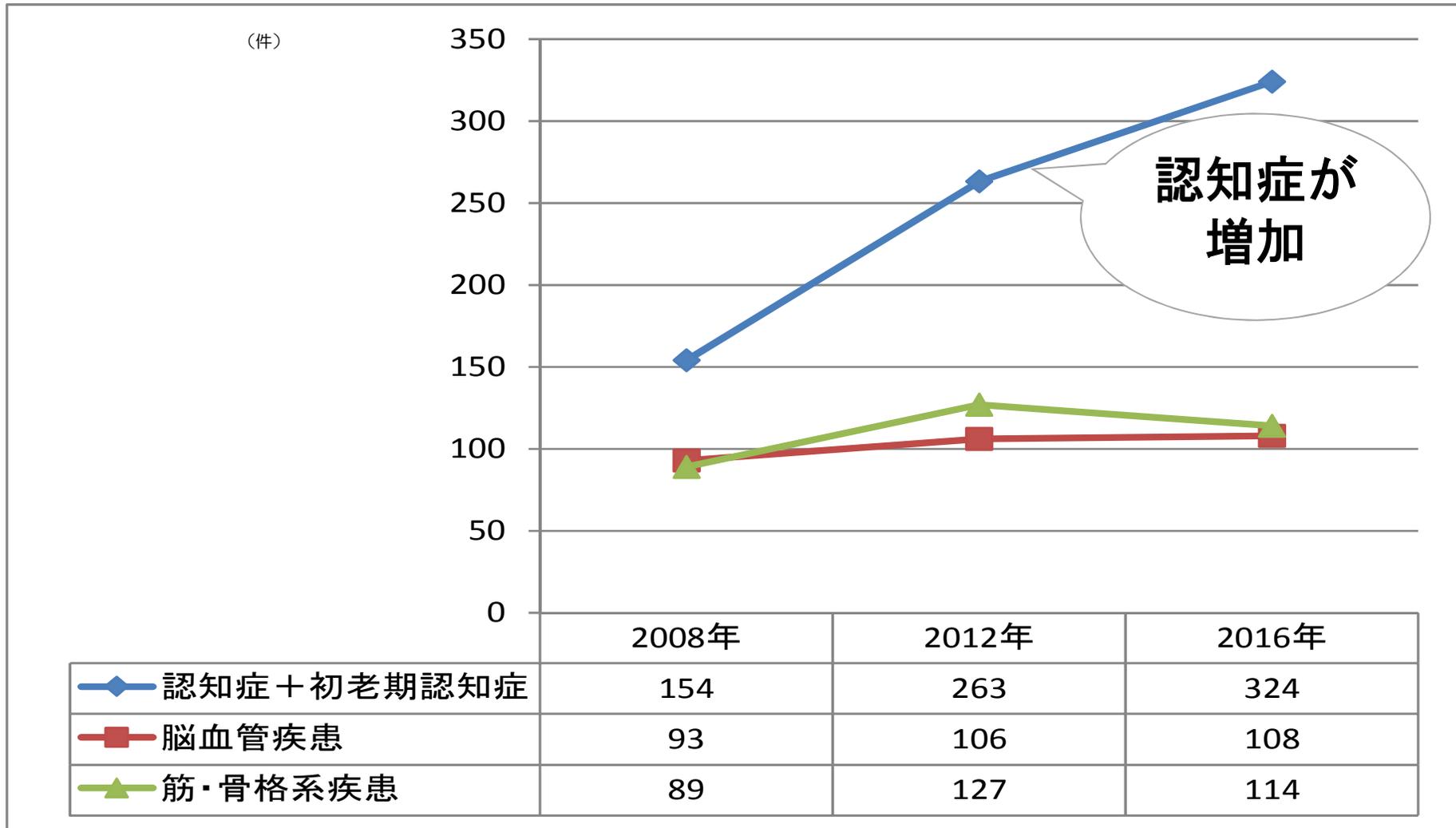
資料:介護保険事業状況報告 各年3月月報

要介護度別認定率の推移(能美市)

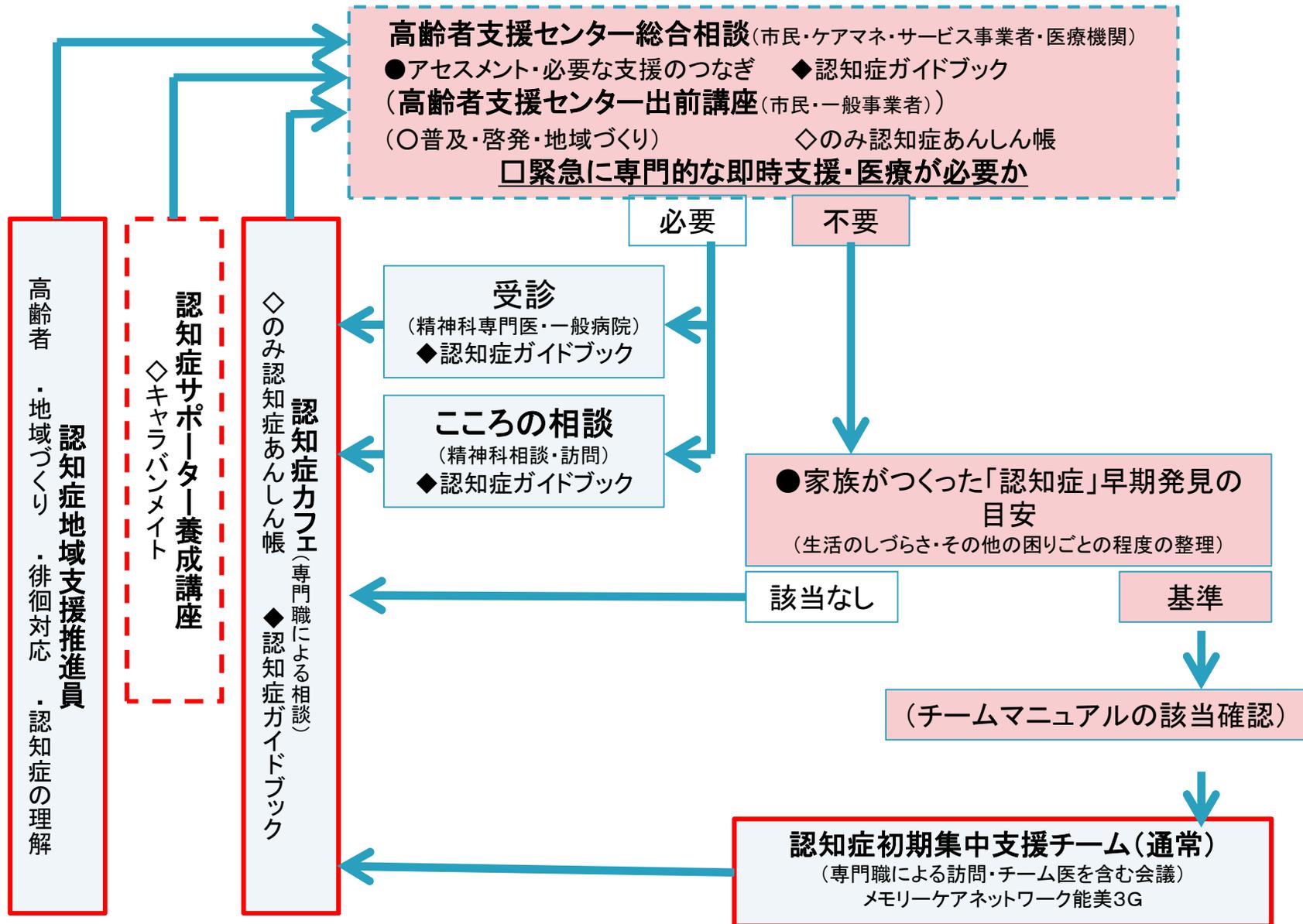


資料:介護保険事業状況報告 各年3月報

要介護1・2の要介護認定原因疾病(第1疾病)の 件数の推移(能美市)



認知症総合支援事業および認知症に関する事業



健康づくり担当部署とのつながり

生活習慣病予防

(糖尿病、高血圧、脂質異常症、脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病性腎症、**認知症予防**など)

介護予防

(筋力低下予防、**認知症予防**など)

生活習慣の改善

適切な身体活動・運動の実践

正しい食生活の実践

適正な生活リズムの推進

個人の健診結果改善

企業等の健康づくり推進

治療

医療機関との連携

・特定健診、特定保健指導の実態
・健診後の医療受診勧奨の状況や結果について

→適正な医療受診ができる

地域力による生活改善

2

【生活支援】から地域のつながり

生活支援サービス推進協議体からの展開

◎地域力強化の推進

地域福祉委員会活性化

◎助け合い・支え合い体制

強い互助活動（継続性）

つながい・広がる地域の互助活動

～地域が活性化され、互助を高める取組みの実施～

- 生活支援サービス推進協議体
での**つながい**の深まり・広がり

- 「のみ共」での団体同士の
つながいによる活動の展開



地域福祉委員会

まちぐるみの組織 町会町内会役員、公民館、民生委員、福祉推進員、各種団体（老人会、壮年団、婦人団体、子ども会）が参加

地域福祉委員会では、1人ひとりの住民が抱える生活上の困りごとを、町内全体の問題と捉え、みんなで解決方法を考えます。

① 気づく

日頃の見守りの中で、心配な方、気になる方などの変化に気づき、地域福祉委員会のメンバーでその情報を共有します。



② 話し合う

①で共有した課題に対して、地域でどんなことが出来るかを話し合います。



③ 解決に向けて

それぞれの地域の状況に応じて活動したり行政や専門機関につないだりします。

★社会福祉協議会も共に考えます。

地域での見守り・支えあい

地域の困りごとを皆で考える

ごみ出しが
大変だ



草むしりが
できない

電球交換が
むずかしい

雪かきが大変だ

買い物に行きたい
けど行けない

①地域福祉委員会の活性化

能美市地域福祉委員会の状況

H30. 3月末現在

<p>⑤</p> <p>課題解決の仕組み等ができている (15町会)</p>	<p>④</p> <p>個人等助け合いの活動が確認できる (4町会)</p>	<p>③</p> <p>地域の課題が共有されている (7町会)</p>	<p>②</p> <p>年に数回の話合いがされている (6町会)</p>	<p>①</p> <p>委員会の開催を呼びかけている (59町会)</p>
--	--	---	--	---

最終目標：全地区を③以上にもっていく

★社協：地域福祉委員会との話し合い実施

(46町会)

①から②段階にUP

⇒9地区

①②段階から3段階以上UP

⇒8地区



～地域福祉委員会の様子～
住民支え合いマップ作成



町内会長から

町会・町内会：1つの地域福祉委員会だけでは課題解決の取組みが難しい場合がある。他の町（内）会と一緒につながる活動ができるとよい。

(介護予防やお助け隊の活動)

②つながい(地域・法人・団体・企業)による地域力強化

◆ NPOの買い物支援 : 社会福祉法人の車両の貸出し応援



地域福祉委員会×社会福祉法人
【法人バスと運転手提供】
★買い物・外出支援

事業実施者（社会福祉法

法人：他の町（内）会ともつながり、
公益事業として活動を拡大できたら
いいと思う



◆地域福祉委員会の買い物・外出支援
社会福祉法人とのつながりによりショッピングセンターへ

③ 団体活動による地域力強化

◆ 買い物支援が必要な方への送迎や移動販売



松が岡老人クラブ
★買い物支援

事業実施者（団体）の声

- 補助金の対象範囲での活動に制限されるため、活動に自由度がほしい。
- 資金の確保に不安
- 活動内容等のアドバイスや相談席がほしい
- 新たな人材を増やしていきたい



子ども食堂



◆ 子どもたちだけではなくみんなの地域食堂となっています

互助の体制を推進するため、学習からスタート！(H30～)

下記の4つの支援体制でしくみをつくる

- 参加者：横系プロジェクトチーム職員・社会福祉協議会・生活支援サービス推進協議体
・地域包括支援体制推進協議体（のみ共）委員



新たな資金支援体制の
必要性を学ぶ
学習会の開催

地元大学の協力の元、資金
支援体制づくりに向け検討

◆ 能美市に応じた資金支援体制の検討から地域の「強い互助支援」へ

「地域包括ケアシステム構築」から 「地域共生社会の実現」

高齢者における地域包括ケアの「つながり」による医療・介護・福祉・保健を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築からステップアップし、誰もが自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域共生社会の実現を目指していきたいと思えます。

ご清聴ありがとうございました

